

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

はっきり言い切る姿勢
事実と意見の区別
分かり易く簡潔な表現

日本人と英語国民の 書き方の違い

■ 英語の文章



- ・明確に書く
- ・あいまいな点を残さない

■ 日本語の文章



- ・はっきりしすぎた言い方
- ・断定的な言い方



避ける傾向が強い！

日本語の文章



「～であろう、～といってよいのでは
ないかと思われる、～と見てもよい」

■ 何故、明言を避けたがるのか？

1) 日本と西欧の文化の違い



- ・西欧は幾つかの民族が同居しているため複雑な言い方や遠回しは誤解をまねく。

2) 欧州は契約社会, 契約と土台として社会が成り立っている。

一方, 日本は

- ・四面の海が異民族の侵入を防ぎ, 同族だけの生活



その結果, 異を立て角つき合わぬこと, みんなに同調する

まとめ

■ 日本と西欧の文化の違い



- ・西欧は人文地理的な事情とキリスト教(宗教)の影響
- ・日本は自分の意見を明確にせず, ぼかした表現によって相手の意向を問いかけ, 相手が決めたような形にして実は自己の意見を通すのをよしとしてきた

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

事実と意見

1 事実と意見

- 事実; 現実に関わり、又は存在する事柄
- 意見; ある事について持っている考え
- 文書を書く時には、事実と意見との区別を明確にする事が特に重要である。
例) 英語を上手に話せる日本人は少ないと思う。何故なら、文科省の教え方が悪いからである。

2 事実とは何か 意見とは何か

理科系の文書で、

- 事実とは; 然るべきテストや調査によって真偽を客観的に確認出来るもの
事実の記述は二価である。
- 意見とは; 推論・判断・意見・確信・仮説・理論がある
意見の記述は多価である。

3 事実の記述 意見の記述

- 事実の記述
 - I その事実を書く必要があるのか吟味する
 - II ぼかした表現でなく明確に書く
 - III 主観に依存する修飾語を混入させない
- 意見の記述
 - I 責任の所在を明確にする為主語をつける
 - II 修飾語がある場合には主語の省略可

4 事実と意見の書きわけ

- 1より、理科系の文書を書く時には、事実と意見との区別が重要である。実際に文章を書く場合、最低限次の心得が必要である。
- 事実を書いているのか、意見を書いているのかをいつも意識して、両者を明らかに区別して書く
- 事実の記述には意見を混入させない様にする

5 事実のもつ説得力

- 意見だけを書いたのでは読者は納得しない。事実の裏打ちがあってはじめて意見に説得力が生まれる。
- 事実の記述は、特定の・具体的であるほど情報としての価値が高い。
例) 台風6号が大きな被害をもたらした。
台風6号が死者3人の被害をもたらした。

技術日本語表現技法 (Technical Writing)

わかりやすく簡潔な表現

8.1 文は短くする

- ・短く, 短くと心がけて書く
目標は約50文字。
頭の中にびっしりある「書きたい事」を, 冷静にコントロールして書き出す必要がある。
- ・文章を短くまとめるための三つの心得
 - ①書きたいことを一つ一つ短い文にまとめる。
 - ②短い文を理論的につなぐ。
短い独立の文を相互の関係がわかるように並べる。
 - ③文の主語が何なのか常に意識する。
主語を書き表すことは必ずしも必要ではない。

8.2 格の正しい文を書く

- ・格の正しい文とは?
 - ①言葉同士の関係が正しく保たれている。
 - ②言葉が脱落していない。
 - ③言葉のつながり方がねじれていない。文の前後で主語が異なっていたり, 主語が二つあったりすると, 文がねじれていて読みにくくなる。
格の正しくない文は英文などでは特に嫌われる。
- ・格の正しい文の例外
「こと」で終わる文章

8.3 まぎれのない文を書く

- ・まぎれのない文とは?
一義的にしか読めない。
意地悪く読もうとしても, 他の意味に取れない。
誤解することがない。
- ・まぎれのない文章を書くためには
 - ①理解できるように書くだけでなく, 誤解できないように書く。
 - ②読者が文をどのような意味に取るか, あらゆる可能性を考慮し, 書き改める。
 - ③修飾語を修飾すべき語に密着させる。
 - ④コンマ, 読点を入れる。

8.4 簡潔な文を書く

- ・簡潔な文とは？
節や単語が重複していない。
あいまいな表現がなく、文と文のつながりが明確。
真の要点だけが記されている。
- ・簡潔な文を書くためには
単に「短く」書くのではなく、必要な要素はもれなく書く。
必要な要素を明確にし、切り詰めた表現で書く。
- ・理科系の文書の書き方
一語削ると必要な情報が不足する様な文を書く。
全ての語に役割がある文を書く。

8.5 読みやすさへの配慮

- ・字面の白さ
用のないところは漢字を使わない → 字面を白くなる
用のないところに漢字を使う → 字面が黒くなる
- ・字面を白くする書き直しの例(P151 表8. 2より)

及び→および	～の通り→～のとおり
並びに→ならびに	～と共に→～とともに
乃至→ないし	～に拘らず→～にかかわらず
或は→あるいは	出来る→できる
即ち→すなわち	分る→わかる
勿論→もちろん	行う→おこなう
普通→ふつう	我々→われわれ

8.5 読みやすさへの配慮

- ・漢語、漢字について
誰にでもスラリと読めるようにする。
かたい漢語や難しい漢字は最低限しか使わない。
〇〇的という言葉は出来るだけ使わない。
- ・受身の文
受身形で書く → ひねくれて読みにくなる
責任のありかがぼやける
能動態で書く → 読みやすくなり、文が短くなる
責任のありかが明確になる
原因は日本語は必要のない場合、主語を省けるため。
理科系の文章では受身の文は少ないほどいい！

8.5 読みやすさへの配慮

- ・並記の方法
条件などいくつかの事柄を並べて書く時に用いる。
番号を打つことで、同格の内容がいくつか続くことを示す。
- ・並記の方法の例
～は(a)～、(b)～、(c)～、……
……という条件がある。
- ・並記による効果
長い文を短い文に分割することができる。
短文を並べるより字数を少なくすることができる。

8.6 文章の中の区切り記号

・区切り記号とは？

ピリオド、コンマ、カッコ、ダッシュ、コロンの、セミコロン、中点、リーダーなど文や文章の中の区切りを表す記号。

・区切り記号の使われ方

ピリオド(句点)→文の終わりに

コンマ(読点)→受ける言葉が離れているときに

カッコ→「会話、引用」、『参考文献』、〈いわゆる……〉

ダッシュ→複雑で読みにくい複文を分りやすくする

コロンの→前に書いたことの詳細、要約、説明を示す

セミコロン→コンマより強い区切りを付けるとき

中点→並列、並列連結を表す。ハイフンのかわり

リーダー→同じものが続くので以下省略のとき

8.7 私流儀の書き方

・漢字の使い方

過剰に漢字が多い文→字面が黒い→読みにくい

過剰にカナが多い文→字面が白い→読みにくい

漢字と仮名の量を調節し、適度な白さで書く。

・文末の述語

同じ形で終わる文がいくつも続くことを避ける。

悪い例

～である。～である。～であろう。～である。～である。

教科書や官庁文書のような堅苦しい文章は、読み物として無味乾燥でつまらなくなる。